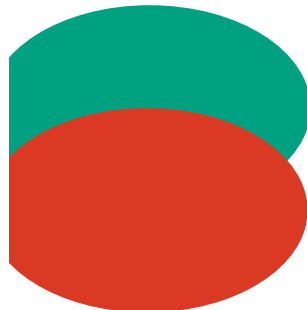


20171024

絵本学会 NEWS No.59

発行：絵本学会
発行日：2017年10月24日
編集：絵本学会広報委員会
絵本学会事務局：〒164-8676 東京都中野区本町2-9-5
東京工芸大学 芸術学部 陶山研究室気付
E-mail office@ehongakkai.com
http://www.ehongakkai.com



絵本学会

第20回絵本学会大会報告(1)
第20回絵本学会総会報告
絵本学会理事会議事録
役員改選のお知らせ

第20回絵本学会大会報告

2017年5月3日(水)～4日(木)、神奈川県横浜市のフェリス女学院大学にて、第20回絵本学会大会が開催されました。今年度の大会は設立20周年を記念しての大会で、大会テーマは「絵本と絵本学の今、そして未来へ」でした。期間中は天候に恵まれ、参加会員は二日間で、のべ177名、非会員の参加者は、3日46名、4日47名と大勢参加してくださり、大学院生・大学生などの参加者を含め、総参加者は270名でした。遠方からの参加もございました。会員の皆様にはご協力ありがとうございました。NEWS紙面を借りて、ここに深くお礼申し上げます。実行委員一同、一年前からしっかり準備し、大会運営もていねいに行いました。行き届かないところも多々あったと思いますが、それらのことは反省として記録に残し、次年度大会実行委員会へ申し送りしたいと存じます。

第20回絵本学会大会実行委員会

藤本 朝巳 (大会実行委員長)
生田 美秋 (大会実行委員・絵本学会担当理事)
和田 直人 (大会実行委員・絵本学会担当理事)
佐々木 由美子 (大会実行委員)
永井 雅子 (大会実行委員)
中山 美加 (大会実行委員)
フェリス女学院大学ゼミ 院生・学生
他 地域協力者 一同

「絵本学会 NEWS No.59」では、第1日目のプログラムより、絵本学会初代会長・吉田新一氏のご挨拶、絵本作家・いわむらかずお氏による記念講演、座談会「太田大八先生を語る」を順次ご報告いたします。

第1日目 5月3日(水) 12:40～13:00

挨拶「絵本学会設立20周年を迎えて」

吉田 新一 (初代会長)

わが国でも、また世界でも、初めてという〈絵本学会〉が、1997年5月11日に、東京の武蔵野美術大学を会場に誕生してから、今年で20年目を迎えました。

20年の歩みを顧みるとき、学会の存在意義の大きいことに改めて、気づかされます。絵本学会研究紀要の『絵本学』を頂点として、さまざまに、活発な研究分野が開拓されてきましたが、そうした研究活動が、それまではどちらかと言うと、個別分散的であったのが、絵本学会という場に集約されることによって、個々の研究に対する相互理解が深まり、新たな視野への展望が開かれる機会も多くなりました。

求心力のある学会のおかげで、会員の活動も自由多様に活発化してきましたが、率直に言って、従来は、絵本の研究が専らというか主に、文学・人文系、児童教育系、図書館系などの場でおこなわれてきたためか、ヴィジュアルな表現体である絵本の見方に偏りがあったことは否めませんでした。が、美術系、デザイン系の方々と合体して、ようやくバランスのとれた絵本独自の研究がおこなわれる場が設けられて、従来のかたよりのあった絵本研究を脱皮しはじめました。そして、研究発表の場も、絵本学会が誕生したおかげで、これまで心のどこかで場違いの所で、という遠慮というか引け目からも、解放されました。

エドワード・アーディゾーニも明言していたように、イラストレーションはいわゆる一般絵画とは異なるジャンルに属します。



また、絵本は子どものための文化財であると同時に、その出来上がった形は、子どものため以外にも活用があるでしょう。そういう柔軟さを持った認識の下で、絵本というジャンルの多角的な研究を認め合う場を、絵本学会は用意してほしいと思います。

こうした点を踏まえながら、改めて絵本学会が誕生するに至った理念を、20周年を迎えた今、もう一度振り返り、原点というか、初心を思い起こして、当学会のレーゾン・デートルを再確認しておきたいと思います。

絵本学会は、昨年8月に天寿を全うされた太田大八氏の熱意あふれる発言に触発されて、誕生の火がとぼされました。太田氏はまず1990年に次のように発言されました。「日本では、毎月おびただしい量の絵本が出版されているが、また、絵本作家や絵本のイラストレーターを志向する人の数も増加しているが、それらは必ずしも絵本の質の向上につながるものではなく、絵本の販売競争は、逆に、迎合、追従、媚態、と言った後退の傾向を数多くみせている。日本では、じつに多種、多様の絵本が氾濫し、同様の定価でも、その質の差は、低俗、卑俗なものから、国立美術館に収蔵してもよいほどのハイレベルのものまで混交のまま、購買者の選択にまかされている。本を選ぶための参考になる、評論や案内はあるが、イラストレーションそのものに対する評論は、皆無の状態である」と、絵本と絵本を取り巻く現状を嘆かれて、強い危機感を吐露されました。

更に、太田大八氏はこのようにも申されました。「絵本は人間が生まれて最初に出会う心の栄養剤です。よい絵本を創り、やさしさ、空想、ユーモア、知識を世界中に広げて、相互理解を

増すことがたいせつです。絵本にこだわる人は、みんな同じ気持ちを持っているでしょう。だからみんなで、いま絵本について語り合い、勉強するために、友人たち、作家、画家、出版・図書館関係、文庫、保育、教育、学生、子どもたち、すべて絵本にかかわる人々が、便利な広場という意味のコンビニエンス・スクエア、すなわち、みんなの討論や研究・勉強の場となる存在の誕生が望ましい」と語られたのでした。申すまでもなくこれは、絵本芸術の質を高めるための悲願の声と、現状打破を訴える貴重な提言でありました。

こうした趣旨というか夢を、太田氏は〈絵本フォーラム〉という形の運動体として具体化しようとされていました。そして、その基盤となりうる、〈絵本学〉なるものが、構築できるか? という問いも、太田氏は1994年になされていました。太田氏のこの問いに答えるように、広く学会員の協力の下、2011年には日本初の『絵本の事典』も誕生しましたが、これは太田氏の問いかけに対する、あくまでも一つの答えであって、それをステップに、絵本学の構築にむけて、私たちは精進しなければならないでしょう。

太田氏の以上のような数々の諸発言は、多くの研究者が潜在的に抱いていた思いに火をともし結果となり、共感の声が、期せずして、というか、起こるべくして、起こりました。機の熟す時が、ようやく到来したと言ってよいのでしょう。

私の理解が誤っていないければ、真っ先に賛成の声を発したのは中川素子氏でした。ついで、今井良朗氏も具体化の声を上げられました、お二人は周辺の同志を巻き込んで、まずは美術・デザイン系の方々の賛同・共鳴を集め、組織と運営を考えつつ、広く絵本研究者たちに声をかけられて、絵本学会は誕生することになりました。

こうして、絵本学会は、真に絵本を愛する人々の情熱の結集する場となり、会員の積極的な協力で、すでに数々の実りを生み、今20年目を迎えたのです。

『絵本 BOOK END』を初めとする各種の社会的啓蒙活動も行われてきました。そして、20周年を記念して『日本絵本研究賞』も創設されて、第一回の受賞作も選ばれ、故太田大八氏の思い描かれた〈絵本フォーラムという形の運動体としての絵本学会〉にふさわしい選考がなされたことなど、会員の皆様と共に喜びを分かち合い、絵本学会が今後も、創設時の初心を忘れずに、堅実・着実に発展をとげて、実りある研究結果を生み、絵本文化の向上に尽くして、アカデミックであると同時に、人々の日常の社会生活にも直接役立つジャンルとしての〈絵本学〉の確立を目指し、その実現を心から祈って、僭越ながら、私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴をありがとうございました。

(全文 吉田 新一)



第1日目 5月3日(水) 13:00~14:00

記念講演 —「14ひきのシリーズ」とわたし— (要約)

講師: いわむら かずお (絵本作家)

太田大八さんの思い出

絵本学会20周年おめでとうございます。絵本学会の「がっかい」は、楽しい「楽会」と書くのだと太田大八さんは言われました。太田さんがこのような会を作られたのは、絵本界としては、すごく良いことだったと今思っています。それから太田さんが作られた傑作は日本児童出版美術家連盟(童美連)です。画家の著作権、原画の所有権など、画家や絵本作家の権利を確立してくれました。そんな当たり前のことを、太田さんたち先輩方が一生懸命に闘ってくれたお陰で、今、絵本作家たちは印税がもらえているのだと思います。権利者が自ら主張しないと権利は守られないということを童美連の活動の中から学びました。

14ひきシリーズで伝えたいこと

自慢話になると恥ずかしいのですが、『14ひきシリーズ』は国内外でロングセラーになりました。エリック・カールさんの『はらぺこあむし』は世界で3千万部くらい出ているそうですが、なぜロングセラーなのか? いろいろ理由があると思います。一つ言えるのは、子どもの読者をたくさん持っているということです。子どもたちからの支持が大切なのです。

『14ひきシリーズ』で何を伝えようとしているのか、作者としてはいろんなことを書き込んでいるつもりです。出版が始まる8年前、

14ひきの一家と同じような暮らしをしようと、私は東京を離れて家族と田舎に移り住みました。あれは近代を描いていると言われたことがありましたが、そうではなく、現代に生きる私たちだからこそ向き合わなければならない問題だと思ったのです。都市を離れ、自然のなかで子どもたちと暮らしていると、生きるために必要な基本的な事柄に気付くのです。木々や草花、鳥やカエルや昆虫たち、リスやノウサギなど、生きものたちのいのちの営みを、いつも身近に見ているとたくさんの発見があるのです。

シリーズの中で初めから描きたかったのは、食事のシーンです。食卓を囲んでいる時間が、世代を越え国を越え、家族にとって一番の幸せな時間だからです。『さむいふゆ』の中で私が意識して描き込んでいるのは、自分たちの暮らしをできるだけ自分たちでやるということです。ゲームやソリなど遊び道具、おやつのおまんじゅうなどを作っています。

『おつきみ』はシリーズの中で、特に気に入っています。これを描くとき観察を一生懸命しました。夕方からだんだん夜に向かっていく夕暮れどきの観察、これは絵本ならではの表現に繋がりました。『こもりうた』には、親しくさせていただいた寺島尚彦さんが、曲をつけてくださいました。♪～ざわわ ざわわ ざわわ～♪の「さとうきび畑」を作詞作曲した方です。最後にこの「こもりうた」を歌って終わりにしたいと思います。

♪～ね～む ね～む ね～むのき～♪

(要約・和田 直人)

第1日目 5月3日(水) 14:15～15:35

座談会「太田大八先生を語る」

今井 良朗 (武蔵野美術大学)、**川端 誠** (絵本作家)、**澤田 精一** (絵本学会理事)、**松本 猛** (絵本学会会長)
司会: 藤本 朝巳 (フェリス女学院大学)

藤本: 絵本学会設立に尽力された太田大八先生 (以下、太田さんに統一) は、昨年 (2016年) 8月に逝去されました。本座談会では生前の太田さんを偲び、あらためて絵本作家としてのお仕事、絵本と子どもの本の発展に尽力された功績を振り返ってみたいと思います。

画家の著作権の確立と童美連の設立

松本: 太田さんの父親はウラジオストックに本店を置く貿易商でした。1918年に大阪に生まれた太田さんは、ウラジオストックにわたり、ロシア革命の影響により1922年、父の郷里である長崎県大村町 (『だいちゃんとうみ』の舞台) に引き揚げました。1928年には一家で東京に移り、1941年に多摩帝国美術学校図案科を卒業しています。孤独な青春時代を過ごした太田さんは、喫茶店に入り浸ってジャズを聴き、映画にのめり込んでいきます。よく言われる“不良の雰囲気”はこの頃に形成されたのだと思います。卒業後は日本世界文化復興部建築部に入社し、日本各地で建築の指導を行っています。1945年の3月には東京大空襲、8月には出張先の広島で原爆の悲惨な光景に遭遇します。反戦への一貫した姿勢はこの体験によるものでしょう。戦後は友人の編集者の誘いでイラストレーションの仕事をはじめます。1962年にはそれまで全く認められていなかった挿絵画家に著作権をと呼びかけ、教科書執筆画家連盟を、1964年にはその活動を引き継ぐ児童出版美術家連盟 (童美連) を設立し、初代理事長に就任しました。運動に関わる画家は仕事を貰えないというといったこともありましたが、粘り強い裁判闘争の結果、子どもの本の挿絵画家の著作権がはじめて認められました。当時、画家の著作権に理解がある出版社は童心社や福音館書店などわずかしかなかった。また、太田さんは挿絵画家ではなくイラストレーターという呼称にこだわり、1969年には日本イラストレーター会議を設立しています。

絵本学会の設立、「子どもの本WAVE」のこと

今井: 出版会館で絵本学会設立のためにお会いしました。非常にやわらかな物腰のひとと言う印象と共に凄いエネルギーを感じました。それが、そこに集まった人たちを動かしたのだと思います。太田さんが絵本学会会長であった期間は短いですが、一言一言に重みがあり、それが現在の絵本学会に引き継がれていると思います。太田さんは多くを語らない方でしたが、大切なことは行動 (活動) で示されました。イラストレーターの地位が低い、これを何とかしたい。そのために作家を交えたフォーラムのような絵本学会を設立する必要があるとおっしゃっていました。初期のころ若手作家を養成する講座を絵本学会でやりたいとおっしゃり、わたしも事務局長として何度か試みましたが、うまくいきませんでした。学会が研究と実作をどう結び付けるか、関係性を

つくっていくかの挑戦は、新しい学会の姿を形作ることになるだろうと思います。その意志を引き継いで行くことが、ここに集まった皆さんに託された課題だと思います。

澤田: “不良だった” という話がありましたが、東京に引っ越してきて小学校に通うのですが、そこから学校に馴染めず、孤独に拍車をかけていったと思います。そのあたりは自伝『紙とエンピツ』 (BL 出版、2009) に書いてありますね。また、広島で原爆を目の当たりにしたことが、その後の人生で大きな意味をもち、社会とのつながりを意識していくことになって、画家の著作権確立のための運動に結びついていったのではないのでしょうか。絵本学会のことですが、絵本学が提唱された『PeeBoo』16号の前の13号で、じつは太田さんから「絵本学」の発言があったんです。出席者の皆さんが呆気にとられているなかで、川端さんが田島征三さんの『ふきまんぶく』は、正確に村の配置が描写されていて、これは今までの絵本にはなかったと発言されたんです。つまりそれは絵本学に繋がっていくものだという含みのあった発言だったのですが、田島さんはそれはそこに住んでいたから、それをただ描いただけだといって、川端さんの意見を認めないんですね。この行き違いはおもしろかったです。「子どもの本WAVE」は、画家の権利を守る活動ではなく、絵本をもっと普及させたいと始めた活動でした。「夢基金」を活用しての活動は各地で歓迎されました。太田さんの行動は、絵本を描くだけではなく、その権利を守る。権利を守るだけではなく、絵本を普及させて画家の収入も安定させていく。そういう活動であるとともに、子どもたちが最初に出会う絵本の質を高め、多くの子どもたちが絵本にふれることができるようにしたいという願いがありました。

絵本の仕事と人柄

川端: 『PeeBoo』の創刊は1990年ですが、その2年前から準備が始まり、初めて太田さんにお会いしました。僕から見るとジェントルマン。声を荒げることなど一切なく、ちょっと不良かなと思うこともありましたが、僕は武蔵野美術短期大学の商業デザイン科にイラストレーターを志して入りました。2年のとき選択科目で絵本をとり、先生が読んでくれたのが『フレデリック』だったのです。それが強烈に残っています。レオーニに感じたのは作、絵を一人でやっていることだったので。自分で文を書いて、デザインまでしてしまう。これはすごくやりがいがあるなと。レオーニはカーボンで描いたり、鉛筆で描いたり、スタンピングをしたり、いろんな技法を使っています。日本の絵本画家でそれができるのは太田さんくらいでしょう。太田さんの幅広さ、パリエーションの多彩さには感心します。そうだと太田さんみたくになんでも描いちゃおうと思いました。それから、太田さんの絵を見ると、とにかく見て描いている。スケッチして描いている。『だいちゃんとうみ』にも、ちゃんとあるべきものが描いてある。見ないとあれは絶対書けません。**松本:** 太田さんの作品をちひろ美術館のコレクションにすべきかどうか随分迷ったのですが、これが代表作だと言う作品がなかなか選べない。太田さんは器用で、何でもできちゃう。『やまなしもぎ』のような作品の日本の情景描写、例えば川の流れのリズムの表現には琳派の影響を感じますし、色調のなかにいくつかの色を重ねていく大和絵の流れも感じます。一流のイラストレーターであることは間違いないのですが、

太田さんの絵が何かが、僕にはわからなかった。日本の伝統的な表現をしたいという思いと、もっとおしゃれな絵を描きたいと言う思い、浮気性だったんじゃないかな。例えば、それはお酒を飲みに行ったときにも感じました。次々に場所を変えられる。

川端: それが太田さんだと思いますよ。どの時代を描かせても描ける、日本の民話でも。それはすごいことだと思います。長新太さんも、太田さんはもっと評価されていいんだけど、自分のスタイルがないから評価されづらいんだと言っていました。確かに、飲みに行くと、30分くらいで、次の店に行こうと言われてましたね。

澤田: 担当編集者として、まずはラフを描いてもらうのですが、太田さんは描かれないんです。ラフをもとに編集会議で議論するんですが、太田さんの場合は何日ごろの刊行を予定しているとしかたない。お願いですからラフ描いてくださいというと、マッチ箱の裏にさっと描いてこれでいいだろうって。それは編集会議に提出できないんです。ラフを描いてそれに沿って本描きに移るんじゃないかと、即興的に描くスタイルなんじゃないかと思います。

『つるようぼう』を赤羽末吉さんと太田さんが描いています。赤羽さんはつるの顔を小さく、首を長く描いて鶴の化身であることをわかるようなフォルムで描いているけれど、食事の場面は寒々しい。太田さんの絵は、つるは健康的でかわいらしく、食事の場面もあたたかい。僕は『つるようぼう』の解釈は太田さんの方が深いと思いますね。

今井: フェリス女学院大学での第三回絵本学会大会の後で、太田さん、松本猛さんと飲みに行った時のことが忘れられないですね。太田さんはピンクのかつらを着て、僕らも被らされて歌ったんです。

太田さんは色々な面をもっていらっしゃる。スタイルがないという話がありましたが、そこが大切で、太田さんはあえてスタイルを作らない、それが太田さんの手法というか、作法だったと思います。そこが僕は好きでした。“絵本はコミュニケーションだよ” という言葉がよくでてきました。この言葉は、絵本はコミュニケーションを作り出すという意味と、絵本は絵が物語る視覚言語なんだと言う意味、いろんな意味を込めた言葉です。いま、いろんな人が言葉を変え、形を変えてそれを実践されていて、絵本学会も20年が経過して、ようやく太田さんの想いが実を結びつつあるのかなと思っています。

最近『かさ』を使ってよく話をします。最初は文字のない絵本としての興味から取り上げていたのですが、今は違います。『かさ』を見ているといろいろな記憶がよみがえってくるのです。『かさ』は太田さんの幼少期から見えて来た原風景が表現のベースになっていて、それを共有したいという想いが詰め込まれている、読者自身の記憶と重なるんです。同じ風景ではないにしてもどこかで。文字はないけれど、そこにはすごく豊かな言葉がある。絵本の力ってこんなにあるんだと言うことをこの絵本によって語り続けることができる。太田さんの作品を検証していくと面白い発見があります。それを若い人にもやってほしい。

松本: 太田さんの原風景の話がでしたが、それは映画だと思うのです。若いときにものすごく映画をみていらっちゃった。太田さんの自作の絵本を見ると、場面が連続していることに気づきます。彼にとって絵本はすべてを自分でコントロールできる映像の世界だったのかもかもしれません。



藤本:石井先生(石井光恵)、生田さん(生田美秋)と、絵本学会の共同研究で太田さんの絵本を取り上げました。わたしは昔話絵本を分析したのですが、見るたびに発見があって、絵の力、ことばの力をとても感じました。『やまなしもぎ』は、福音館書店の「こどものとも」にすでに佐藤忠良さんのすぐれた作品があるのですが、それを超えるような絵本をお描きになりました。この絵本では、三人の息子が次々に出かけていくのですが、時間の経過を示すために色彩を変えて描いています。語りの背景にあるものまでも描いています。

ここで、突然で申し訳ありませんが、会場からも、お付き合いのあった村上康成さん一言お願いします。

会場からの発言

村上康成(会場):僕も川端さんと一緒に『PeeBoo』の編集で一緒にさせていただきました。ダンディーで怖かった。作品は「個性のない個性」というのがすごいと思いました。太田さんが絵を描く姿勢は、まず物語を熟知し、それから絵を決めていく。この作品はこんな感じというように作品ごとに一番良いと思われる手法を採用していくイラストレーターだと思います。作品に対する真摯な向かい方というのは、僕自身の戒めでもあるのですが、若い作家にも見習ってほしい。

三宅興子(会場):後期の昔話絵本に描かれた女の人やすごく色っぽいと思うんです、それが特徴のような。

川端:形だけを描くんじゃなく、内面を描かれているからじゃないかと思います。

絵本の部屋・加賀美裕子(会場):私たちの手作り絵本を見ていただいたとき、僕はもっと絵本の勉強をするよ、絵本の基本を勉強するよとおっしゃったのには驚きました。いつも基本に立ち返って勉強をされているのだなと思いました。

前沢明枝(会場):インタビューでうかがったとき、日本画の小村雪岱が好きで、挿絵を研究されていたことを思い出しましたので付け加えさせていただきます。

藤本:皆様ありがとうございました。時間が参りましたのでこれで座談会を終わります。

(報告まとめ: 生田美秋)

※ ミニ展示コーナー(教室)を設置し、ポスターやスケッチなどのコピー、及び太田先生の語られた文章や他の作家の方の言葉などをパネルに展示しました。

※ 資料 『太田大八作品集』 童話館出版 2001年
『紙とエンピツ』 BL 出版 2009年
『絵本作家のアトリエ1』 福音館書店 2012年
「太田大八さん92歳、いまま現役! / 絵本で世界をひとまわり ロシア編」『この本読んで!』2010年冬号 出版文化産業振興財団(JPIC)

『絵本の作家たち(2)』(別冊太陽) 小野明 平凡社 2005年
※ なお、太田先生の作品は、現在入手できるものはフェリス女学院大学図書館で購入して、期間中、展示しました。(57冊)



満員のキダーホール(フェリス女学院大学)

絵本学会第20回定期総会報告

日時: 2017年5月3日(土) 17:45 ~ 18:25

会場: フェリス女学院大学(横浜市泉区)

議長: 松本育子 書記: 和田直人

出席者数: 75名、委任状提出者数 87名

1. 開会の辞

生田美秋大会実行委員より開会の辞が述べられた。

2. 議長・書記選出

議長に松本育子氏、書記に和田直人氏が選出された。

3. 会長挨拶

松本猛会長より、第20回定期総会開催にあたり、挨拶が述べられた。

4. 2016年度活動報告

陶山恵事務局長より、2016年度活動報告(案)に基づき下記のような活動報告がなされ承認された。

◆ 絵本学会 2016年度活動報告

◎ 第19回絵本学会大会の開催

2016年5月28日(土)、5月29日(日)

京都女子大学(京都市東区)

テーマ: 「絵本研究のあり方をめぐって

— 絵本学会創立20周年に向けて —

参加者 会員137名、一般37名、学生17名 合計191名

◎ 企画委員会の活動

・ 絵本フォーラム 2016の開催(研究委員会との合同企画)
2017年2月4日(土) 千葉市美術館

「BIB50周年 プラティスラヴァ世界絵本原画展と日本の絵本50年」

登壇: 田島 征三、村上 康成、ミロコ マチコ、松本 猛、
広松 由希子

参加者 153名

◎ 紀要委員会の活動

・ 絵本学会研究紀要『絵本学』第18号の刊行

◎ 機関誌編集委員会の活動

・ 機関誌『絵本 BOOK END 2016』の刊行

・ 機関誌『絵本 BOOK END』のリニューアル準備

◎ 研究委員会の活動

・ 研究会の開催

2016年11月6日(日) 兵庫県立歴史博物館

テーマ: 〈絵雑誌の研究 その意義と新たなアプローチ
— 「池田コレクション」、「入江コレクション」を中心に —〉

登壇者: 三宅興子、香曾我部秀幸、香川雅信

参加者 47名

・ 絵本フォーラム 2016の開催(企画委員会との合同企画)

・ 絵本研究助成(2件、各5万円)

1) 申請者: 杉浦篤子

研究課題: あべ弘士が描く野生—エゾオオカミ物語が伝えるもの

2) 申請者: 宮下美沙子

研究課題: いわさきちひろと戦後日本の母親像 — 「母性の画家」としてのイメージ生成とその画集

◎ 広報委員会の活動

・ 『絵本学会 NEWS』の発行

56号(2016年12月)、57号(2017年3月)

・ ウェブサイトの管理運営

・ メールニュース配信の準備

◎ 「フォーラム・子どもたちの未来のために」との連携活動(実行委員会に参加)

・ 「『井上ひさしの子どもに伝える日本国憲法』を読む」

2016年4月16日(日) 於: ちひろ美術館(東京)

朗読: 斎藤とも子 講演: 樋口陽一(憲法学者)

・ 「どうなるニッポン! どうするニッポン?」

「今、日本で起きていることが将来の子どもたちにとって
どういう意味を持つのか」

2016年6月20日(日) 於: 文京シビックセンター

登壇: 元山仁士郎(SEALDsRYUKYU)

ライブステージ: 松元ヒロシ

・ 「第3回学習会」 2016年12月8日(木) 於: 出版クラブ

登壇: 伊藤真(弁護士)

・ 「第4回学習会」 2017年2月3日(金) 於: 童心社

登壇: 野上暁(児童文学・文化評論家)

・ 「第5回学習会」 2017年3月6日(月) 於: 出版クラブ

登壇: 山田健太(専修大学教授)

◎ 日本絵本研究賞の創設(特別委員会の活動)

第1回日本絵本研究賞の募集、選考を行い、受賞者および受賞論文を決定した。

第1回日本絵本研究賞

受賞者: 村中李衣/西隆太郎

受賞論文: 「長期入院児のための絵本の読みあい」

第1回日本絵本研究賞 奨励賞 該当なし

◎ 日本学術会議協力学術団体への絵本学会の登録申請

会員名簿(2016年度版)の作成と同時に、会員情報を収集し、申請に向けて準備を継続

◎ 20周年記念事業の検討

機関誌『絵本 BOOKEND2017』を記念号とし、判型デザイン
の一新を計画

絵本研究書の出版企画を継続審議中

「絵本学会20年史」冊子の作成(2017年度に発行予定)

◎ 絵本学会会員名簿(2017年2月版)作成

◎ 入退会

入会者: 29名 退会者: 21名

5. 2016年度決算・会計監査報告

陶山恵事務局長より、資料「2016年度決算報告書」に基づき、会計報告がなされた。監査担当の香曾我部秀幸氏より、監査の結果、適正と認める旨報告された。

審議の結果、2016年度決算報告が承認された。

絵本学会 2016年度決算報告書

2016年4月1日～2017年3月31日

科目	予算額	決算額	差額(予算-決算)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,960,000	4,919,000	-959,000	
賛助会員	300,000	280,000	20,000	20,000×15口(現在12団体)
正会員	3,600,000	4,605,000	-1,005,000	8,000×428名(現在約500名)
準会員	60,000	34,000	26,000	準会員10名
②事業収入	220,000	139,800	80,200	
研究活動事業収入	20,000	0	20,000	
フォーラム収入	20,000	0	20,000	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	200,000	139,800	60,200	『絵本BOOK END』2015年度未収分、2016年度は未収
③雑収入	130,200	112,264	17,936	
受取利息収入	200	2	198	
入会金収入	80,000	66,000	14,000	入会金2,000×33名
雑収入	50,000	46,262	3,738	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,310,200	5,171,064	-860,864	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,640,000	2,416,354	223,646	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,240,000	2,016,354	223,646	
消耗品費支出	80,000	11,292	68,708	事務消耗品費
印刷製本費支出	1,060,000	896,770	163,230	
絵本学会ニュース	260,000	92,710	167,290	絵本学会NEWS 56,57号
研究紀要	550,000	548,856	1,144	『絵本学』18号
会員名簿	150,000	160,704	-10,704	
その他	100,000	94,500	5,500	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	500,000	744,408	-244,408	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	420,000	193,740	226,260	理事旅費等(理事会5回/年)
会議費支出	10,000	2,368	7,632	
広告費支出	110,000	60,000	50,000	
印刷物制作費支出	50,000	0	50,000	
HP更新作業費支出	60,000	60,000	0	
振込手数料	10,000	7,776	2,224	
雑支出	50,000	100,000	-50,000	絵本学会大会労賃、発送作業など
②活動費支出	1,442,000	1,051,400	390,600	
大会運営補助金支出	400,000	268,957	131,043	ポスター等制作費を含む
第18回絵本学会大会補助金	400,000	268,957	131,043	
専門委員会活動費支出	592,000	536,014	55,986	
企画委員会	200,000	200,000	0	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	100,675	-675	紀要編集等
機関誌編集委員会	80,000	62,808	17,192	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	100,000	96,003	3,997	研究会主催
広報委員会	112,000	76,528	35,472	『絵本学会ニュース』編集
研究助成費支出	150,000	100,000	50,000	
20周年事業支出	300,000	146,429	153,571	*20周年事業として以後継続
絵本研究賞	300,000	146,429	153,571	『絵本BOOK END 2016』
③出版事業支出	1,350,000	1,345,680	4,320	
編集作業費支出	0	0	0	
制作費支出	1,350,000	1,345,680	4,320	
事業活動支出合計	5,432,000	4,813,434	618,566	
事業活動収支差額	-1,121,800	357,630	1,479,430	

II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
	0	0	
投資活動収入計	0	0	
2. 投資活動支出			
20周年事業積立金	500,000	500,000	0
投資活動支出計	500,000	500,000	0
投資活動収支差額	-500,000	-500,000	0
III 財務活動の部			
1. 財務活動収入			
長期借入金収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
長期借入金返済支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	200,000	6,324	6,324
			雑損出
当期収支差額	-1,821,800	-148,694	-1,673,106
前期繰越収支差額	3,545,577	3,545,577	0
次期繰越収支差額	1,723,777	3,396,883	-1,673,106

*日本絵本研究賞の事業は、特別委員会にて、以後継続事業となる

財産目録

2017年3月31日現在

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金手元有高	240,803	
普通預金 リソな銀行高槻支店	0	
普通預金 ゆうちょ銀行	1,162,760	
定額貯金 高槻天王郵便局	2,000,000	
絵本学会振替口座(20周年積立金100万円を含む)	893,320	
未収金	200,000	
次年度仮払い金(大会運営補助金)	400,000	
流動資産合計		4,896,883
資産合計		4,896,883
II 負債の部		
1. 流動負債		
流動負債合計	0	0
負債合計		0
正味財産		4,896,883

次年度繰越金 4,896,883

絵本学会 2017年度収支予算(案)

2017年4月1日～2018年3月31日

科目	予算額	前年予算額	増減(前年度比)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①受取会費収入	3,900,000	3,960,000	-60,000	
賛助会員	240,000	300,000	-60,000	20,000×12口(現在10団体)
正会員	3,600,000	3,600,000	0	8,000×450名(現在約500名)
準会員	60,000	60,000	0	4,000×10+2,000×10名
②事業収入	200,000	220,000	-20,000	
研究活動事業収入	0	20,000	-20,000	
フォーラム収入	0	20,000	-20,000	入場者収入
研究会収入	0	0	0	参加費収入
出版事業収入	200,000	200,000	0	『絵本BOOK END』販売配当
③雑収入	130,200	130,200	0	
受取利息収入	200	200	0	
入会金収入	80,000	80,000	0	入会金2,000×40名
雑収入	50,000	50,000	0	出版物在庫販売
事業活動収入合計	4,230,200	4,310,200	-80,000	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	2,670,000	2,640,000	30,000	
人件費支出	400,000	400,000	0	
事務局報酬支出	400,000	400,000	0	事務局賃金等
事業費支出	2,270,000	2,240,000	30,000	
消耗品費支出	80,000	80,000	0	事務消耗品費
印刷製本費支出	930,000	1,060,000	-130,000	
絵本学会ニュース	260,000	260,000	0	絵本学会NEWS 58,59,60号
研究紀要	550,000	550,000	0	『絵本学』19号
会員名簿	20,000	150,000	-130,000	2017年度会員名簿追加訂正
その他	100,000	100,000	0	封筒印刷代、払込書印字代
通信運搬費支出	800,000	500,000	300,000	ニュース等発送費・通信費
旅費交通費支出	250,000	420,000	-170,000	理事旅費等(理事会5回/年)
会議費支出	10,000	10,000	0	
広告費支出	140,000	110,000	30,000	
印刷物制作費支出	80,000	50,000	30,000	
HP更新作業費支出	60,000	60,000	0	
振込手数料	10,000	10,000	0	
雑支出	50,000	50,000	0	
②活動費支出	1,450,000	1,442,000	8,000	
大会運営補助金支出	400,000	400,000	0	ポスター等制作費を含む
第18回絵本学会大会補助金	400,000	400,000	0	
専門委員会活動費支出	600,000	592,000	8,000	
企画委員会	200,000	200,000	0	フォーラム等
紀要編集委員会	100,000	100,000	0	* 紀要編集等
機関誌編集委員会	80,000	80,000	0	『絵本BOOK END』編集
研究委員会	100,000	100,000	0	研究会主催
広報委員会	120,000	112,000	8,000	『絵本学会ニュース』編集
研究助成費支出	150,000	150,000	0	
20周年事業支出	300,000	300,000	0	
日本絵本研究賞	300,000	300,000	0	** 20周年事業として継続
③出版事業支出	1,780,000	1,350,000	430,000	『絵本BOOK END 2017』
編集作業費支出	80,000	0	80,000	
制作費支出	1,700,000	1,350,000	350,000	
事業活動支出合計	5,900,000	5,432,000	468,000	
事業活動収支差額	-1,669,800	-1,121,800	-548,000	

II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
	0	0		
投資活動収入計	0	0		
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	500,000	-500,000	
投資活動収支差額	0	-500,000	500,000	
III 財務活動の部				
1. 財務活動収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
長期借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	200,000	200,000	6,324	雑損出
当期収支差額				
	-1,869,800	-1,821,800	-48,000	
前期繰越収支差額				
	3,396,883	3,396,883	0	
次期繰越収支差額				
	1,527,083	1,575,083	-48,000	

* 紀要編集等⇒2014年度より、絵本研究参考文献目録等作成費として50,000円含む

** 日本絵本研究賞の事業は、特別委員会にて、以後継続事業となる

<p>6. 2017年度活動計画案について 陶山恵事務局長より、「2017年度活動計画(案)」に基づき下記のような2017年度活動計画が提案され、承認された。</p> <p>◆ 絵本学会 2017年度活動計画</p> <p>◎ 第20回絵本学会大会の開催 2017年5月3日(水)、4日(木) フェリス女学院大学(横浜市泉区) テーマ:「絵本と絵本学の今、そして未来へ」</p> <p>◎ 企画委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本フォーラムの開催 <p>◎ 紀要編集委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本学会研究紀要『絵本学』第19号の刊行 <p>◎ 機関誌編集委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 機関誌『絵本 BOOK END 2017』の刊行 <p>◎ 研究委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究会の開催 絵本研究助成 <p>◎ 広報委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 『絵本学会 NEWS』の発行(年3回の予定) ウェブサイトの管理運営 メールニュースの配信 <p>◎ 特別委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回日本絵本研究賞の運営 <p>◎ 「フォーラム・子どもたちの未来のために」との連携活動(実行委員会に参加)</p> <p>◎ 日本学術会議協力学術研究団体への絵本学会の登録申請</p> <p>◎ 20周年記念事業の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 機関誌『絵本 BOOK END 2017』を記念号として発行 絵本研究書の出版 「絵本学会20年史」冊子の作成 	<p>◎ 他学会等との連携</p> <p>◎ その他</p> <p>7. 2017年度収支予算案について 陶山恵事務局長より、資料「2017年度収支予算(案)」に基づき、説明がなされた。 審議の結果、原案通り承認された。</p> <p>8. 会則の変更について 陶山恵事務局長より、日本絵本研究賞の会としての位置づけに関し、現在、会則の変更について検討中である旨報告があった。</p> <p>9. その他 陶山恵事務局長より、2018年度からの次期学会役員選挙の運営を2017年度秋口から開始する旨報告があった。 2018年第21回絵本学会大会開催校として、北海道の札幌大谷短期大学の紹介がなされた。</p> <p>10. 閉会の辞 松本育子議長より閉会の辞が述べられた。</p>
---	--

資料「2016年度決算報告書」 P.8・9
資料「財産目録(2017年3月31日現在)」 P.9
資料「2017年度収支予算(案)」 P.10・11

<p style="text-align: center;">絵本学会理事会報告</p> <p>◎ 2017年度 第1回絵本学会理事会 議事録 日 時: 2017年5月3日(日) 10:00-12:00 会 場: フェリス女学院大学 7号館小会議室 出席者: 松本猛(会長) 陶山恵(事務局長) 生田美秋 佐藤博一 澤田精一 永田桂子 本庄美千代 松本育子 村上康成 和田直人 藤本朝巳(第20回大会関連の審議事項のみ)</p> <p>議事次第 ○ 報告事項 1. 会長挨拶 松本会長より、第1回理事会の開催挨拶があった。 20周年記念大会の開催、憲法施行70周年ということでテロ等組織犯罪防止法案についてのチラシを総会に出すことが報告された。</p> <p>2. 前回(2016年度第7回絵本学会理事会)議事録の確認 承認された。</p> <p>3. 第20回絵本学会大会(2017年度)について 参加回答について、出席会員142名、委任状87通であることが報告された。一般参加者に向けては、地域タウン誌3社にて広報を行い、近隣の学校の教職員、保護者の方々にも招待券、優待券を配布するなどして参加呼びかけを行ったことが報告された。</p> <p>4. 各委員会報告 1) 企画委員会 2017年度の活動案として「絵本と美術教育」をテーマとすることが報告された。 2) 紀要編集委員会 ・紀要「絵本学」19号進捗状況、今後のスケジュールについて報告された。掲載は、論文2本研究1本報告2本となり、5月末完成、6月初めに会員向け送付可能となることが報告された。 ・紀要「絵本学」20号投稿論文募集については、3月末に募集要項を配布したことが報告された。 3) 機関誌編集委員会 「絵本 BOOKEND 2017」刊行について、5月末に配布可能となることが報告された。 4) 研究委員会 2017年度の活動については12月2日(土)に開催を計画していることが報告された。 5) 広報委員会 3月15日付で絵本学会 NEWS 57号を発行したことが報告された。 4月10日に学会メールニュースの配信を開始、437名のメールアドレスを名簿より抽出し配信を行ったことが報告された(うち、39名リターン)。 6) 特別委員会(日本絵本研究賞) 第2回日本絵本研究賞実施に向けての改善案について報告された。</p> <p>5. 事務局より 特になし</p> <p>6. 「フォーラム 子どもたちの未来のために」について 勉強会等の開催告知は、学会メールニュース、HPの告知を活用する予定であることが報告された。</p>	<p>7. その他 入会案内チラシを2000部作成し、事務局、各委員会の広報活動等に活用すること、事務局にて600部を預かることが報告された。</p> <p>○ 審議事項 1. 入退会者について(3月4日~5月3日) 入退会者および、2016年度除籍者について審議され、承認された。 入会者: 尾崎智子、増原真緒。根子香代、川田雅直 計4名 退会者: なし 除籍者: 二階堂邦子、本間由佳、チョールナヤ・オクサーナ、吉田麻美、バク ミギョン、都野誠一、水野慶子 計7名</p> <p>2. 事務局より 表彰状用の学会印の作成が検討され、承認された。</p> <p>3. 各委員会より 1) 企画委員会 特になし 2) 紀要編集委員会 紀要執筆事項の改訂部分について審議され、承認された。 3) 機関誌編集委員会 特になし 4) 研究委員会 特になし 5) 広報委員会 学会 NEWS No.58 発行計画について審議され、承認された。 発行予定は6月上旬から中旬となる。 メールニュースは月1回に発行予定であり、学会の広報活動として、ウェブ、Facebook、学会 NEWS、メールニュースが活用可能であることが検討され、承認された。 6) 特別委員会(日本絵本研究賞) 学会会則変更に関わる部分の審議を継続審議とすることが審議され、承認された。</p> <p>4. 第21回絵本学会大会(2018年度)について 6月2日(土)、3日(日)の予定であるが、変更の可能性も残っていることが検討され、承認された。</p> <p>5. 絵本学会20周年記念事業について 20年史記録誌冊子の発行計画について審議され、承認された。記念出版企画については継続審議となった。</p> <p>6. 日本学術会議協力学術研究団体への登録について 2017年2月分の会員名簿の情報をもとに、2017年度中に登録することを目指すことが審議され、承認された。</p> <p>7. 2017年度理事会日程案について 理事会開催計画が審議され、承認された。これにより、2017年度の理事会は、6月25日(第2回)、10月1日(第3回)、12月17日(第4回)、2018年3月25日(第5回)の日程で開催する。</p> <p>8. その他 第20回大会での事務局取扱の書籍販売について、販売価格が審議され、承認された。紀要16~18号(最新号とその前2号)は1000円、その他バックナンバーは一冊300円。『絵本 BOOK END』最新号は定価、その他のバックナンバーは一冊500円で販売することが承認された。</p>
--	---

● 2017年度 第2回絵本学会理事会 議事録

日 時：2017年6月25日(日) 14:00～17:00
会 場：東京工芸大学中野キャンパス2号館3階アトリエ2
出席者：松本猛(会長) 陶山恵(事務局長) 澤田精一 永田桂子
松本育子 村上康成 和田直人
委 任：生田美秋 佐藤博一 本庄美千代

議事次第

○報告事項

1. 会長より

松本会長より、第2回理事会の開催挨拶があった。

2. 前回(2017年度第1回絵本学会理事会)議事録の確認承認された。

3. 各委員会報告

1) 企画委員会

フォーラム開催について、5月に打ち合わせを行い、6月にブルーノ・ムナーリ協会岩崎清氏と面会、全面的な協力を得られることとなった。年内に開催(12月)を予定していることが報告された。

2) 紀要編集委員会

・紀要「絵本学」19号の発行が終了したことが報告された。

・紀要「絵本学」20号について

今後のスケジュールが報告された。募集にあたって執筆要項の見直しを行っていることが報告された。

・絵本研究参考文献目録作成について

作成者の引き継ぎを行っていることが報告された。

3) 機関誌編集委員会

「絵本 BOOKEND 2017」発行について、2000部作成され会員向け等の送付が進んでいることが報告された。

4) 研究委員会

・2017年度研究助成について、募集開始となっていることが報告された。

・研究会は12月2日(土)開催予定で計画していることが報告された。

5) 広報委員会

学会ニュース NO.58は7月中旬に発行予定であることが報告された。

6) 特別委員会(日本絵本研究賞)

第2回日本絵本研究賞運営経過について、「募集要項」の作成作業を行ったことが報告された。

4. 事務局より

特になし

6. 「フォーラム 子どもたちの未来のために」について

勉強会(7月13日18時～20時/日本出版会館/登壇：藤田のぼる)が開催されることが報告された。

7. その他

特になし

○審議事項

1. 入退会者について(5月4日～6月25日)

入退会者について審議され、承認された。

入会者： 出口マクドナルド友香理、田中秀行、谷口昌子、長澤麻里、大沢瑞綺、中村敬子 計6名

退会者： 齋藤有、杉田豊(ご逝去)、坂井美穂、宮崎豊子、河合高鋭、青木香住、三村久美子、清水百合香 計8名

2. 事務局より

特になし

3. 各委員会より

1) 企画委員会

今年度の企画運営のために有福一昭会員が企画委員として推薦され、承認された。

2) 紀要編集委員会

ウェブサイト上で公開されている紀要の目次の更新作業が必要であることが指摘され、状況の改善について審議された。

3) 機関誌編集委員会

・経費について削減の検討が必要であることが指摘された。

・判型変更への対応や内容についての意見があがり、次号以降の計画に対して見直しを行っていくことが検討され、継続審議となった。

4) 研究委員会 特になし

5) 広報委員会

学会ニュース発行計画等の現状報告により、状況を改善するための方法が検討され、継続審議となった。

6) 特別委員会(日本絵本研究賞)

・第2回日本絵本研究賞実施募集要領について審議され、文言を整理したのちに承認された。

・本年度のスケジュールについて審議され、承認された。

4. 第21回絵本学会大会(2018年度)について

担当校の実行委員会より、開催は6月2日・3日の予定、開催校視察について、8月2日に松本会長と松本育子理事が視察に出かける計画で進めることが審議され、承認された。

5. 絵本学会20周年記念事業について

出版事業について、企画内容は確定し、出版社との交渉に入っていることが審議され、承認された。「絵本学会20年史」について、内容及び発行スケジュールについて審議され、承認された。

6. 日本学術会議協力学術研究団体への登録について

継続審議となった。

7. その他

・会員向けチラシ配布について

「配布料」を課すという対応が審議され、今後検討していくことになった。

・理事会運営について

理事会開催年間計画を作成し運営しているにも関わらず、委任欠席の理事があり審議が滞っていることが問題となった。理事会の正常な運営のために、会長より欠席した理事に連絡を入れ、すでに決定している理事会開催日程については出席を最優先事項とし、今後の是正に努めることとなった。

以上

事務局からのお知らせ

役員選挙のお知らせ ～理事、監事の選挙があります～

理事、監事の候補者をご推薦ください

○自薦・他薦可、何名でもかまいません。

○はがきか封書で「絵本学会事務局「選挙管理委員会」」までご郵送ください。メールやFAXは不可。

○締切は2018年2月4日(日)[必着]、「推薦する人」と「推薦される人」の名前を明記してください。

・任期は3年。理事は10名の内7名は正会員の選挙で任命されます。3名は理事会の推薦を得て会長が任命します。

・選挙による理事候補者は、70歳を越えない会員となっておりますので、ご推薦の際はご留意ください。

・理事を直前に連続2期続けた会員(松本猛、佐藤博一、本庄美千代)は、今回の選挙では候補者とはなりません。

・監事は、任期や年齢の期限がありません。

候補者を決定して以後の選挙日程

○選挙管理委員会が、推薦された候補者の名簿を作成します。

○2月20日(火)までに名簿と投票用紙を会員に郵送します。

○投票締切は3月17日(土)[必着]です。投票用紙を返信用封筒に入れて郵送してください。

○選挙の結果は、絵本学会ホームページと「絵本学会 NEWS」61号(2018年5月発行予定)で公表します。

○選出された新理事(候補)の互選によって会長(候補)が決定し、会長(候補)推薦による事務局長(候補)と3名の理事(候補)を含む新理事会は、6月の総会で会員の承認を経たうえで、正式に発足します。

★2018年6月の総会までは、現役員が業務を担当します。

〈参考〉※絵本学会ウェブサイト(<http://www.ehongakkai.com/about/pg10.html>)より転載

理事選出規則

1. 理事は10名の内7名は正会員の中から正会員の選挙によって選出される。上位7番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から7番目までを当選とする。なお、7番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。

会長は、理事会の推薦を得て、さらに3名の理事を任命することができる。

2. 理事候補者は、選挙の1ヵ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行う。

3. 理事候補者は、70歳を越えない者とする。ただし、会長によって任命される3名の理事は、その限りではない。

4. 理事の選挙は、7名を連記し郵送によって行う。

5. 選挙および会長任命によって選出された理事は、総会の承認を得て決定する。

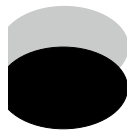
監事選出規則

1. 監事は、正会員の中から正会員の選挙によって、2名が選出される。上位2番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から2番目までを当選とする。なお、2番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。

2. 監事候補は、選挙の1ヵ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行う。

3. 監事の選挙は、2名を連記し郵送によって行う。

4. 選挙によって選出された監事は、総会の承認を得て決定する。



絵本学会